
生きとし生ける者に告ぐ

玲音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生きとし生ける者に告ぐ

【Nコード】

N0577U

【作者名】

玲音

【あらすじ】

時は2011年、春。

ここに、病で余命一ヶ月と言われる少年がいた。しかし、それにしては、笑顔の耐えない少年だった。何かを待っているようで、元気とは言いがたいものの、ガンと言うことが信じられないほどの明るさを持っていたのだ。

ある日、ついに、少年が待ち焦がれているものが届いた。少年は届いたそれを見ると、大きく息を吐いた。そして、一言言った。

「……ついに来たんだね、僕の命」

余命一ヶ月（前書き）

この話についての注意点がいくつかあるので書かせていただきますと、

* 作者は、病氣のことについて&野球のことの知識は全くありません。なので、間違ったこととか変な表現をしてしまうかもしれませんが、大目に見てやって下さい（病氣は特にそうです）

* それから、他にも小説を投稿しているので、執筆が亀並みに遅いと思います。

* もし、間違いがあつたら教えて下さると嬉しいです。

・・・最後のは願望なのですが、教えていただけると嬉しいです。はい、このような沢山の注意点のある作品ですが、もしよろしければ、読んでいただけると幸いです。

そんな小説を読みたくない！という方は、ブラウザの戻るボタンをクリックして下さい！

余命一ヶ月

2011年、春、僕・・・石神真弥は余命一ヶ月と宣告された。

最初は驚いた。今までの僕は、何の怪我也病氣もせず、健康ですくすくと育って来た。それなのに、突然、余命一ヶ月と宣告されたんだ。

病名は、末期ガン。元々からだの弱いところもあったけど、まさか、ガンになるなんて、思ってもいなかった。

ガンなんて、自分とは無縁の存在だと感じてた。まさか、自分もガンになってしまうとは・・・。

それを聞かされた僕の両親も、言葉を失っていた。そして、僕の気づかないところで泣いているのがわかった。ガンは、もう、手の届きようのないところまで転移していて、もう、治療のしようがないから、病院にいるよりも、家にいた方がいいんじゃないか？と言われた。でも僕は、家に帰るつもりはなかった。

家に帰っても、両親が夜な夜な泣いているのを見てしまうだけだし、毎日お見舞いにも来てくれる。なら、病院にいたいと思ったのだ。

僕は、自然と絶望はしなかった。僕はまだ、十五年しか生きていないのに、今月には死んでしまうと言われているのに、絶望をしなかった。

絶望なんかするよりも、せめて、残りの命を楽しく過ごしたいと思った。両親は、僕の前では無理に笑ってるのがバレバレだし、友達

も、わざと明るい話題を持ちかけて来る。僕は、それがとても辛かった。

その時、病室の扉が開き、二つの顔が覗いた。

「よお、真弥！」

「あつ、松本君！それに、春日君も！わざわざ来てくれたんだ！」

「まあな、旧友の見舞いに来るのは当然だろ？」

そう言つて、松本君は、ベットの傍にある椅子に座った。春日君は、その場で立つたままだ。

「最近部活はどう？」

「ああ、ばつちりだぜ！見ろ！俺の黒さを！浮いてるだろ？」

そう言つて腕を見せて来る松本君は、確かに春の肌の色とは思えないぐらいに黒かった。

松本君は野球部で、高校では一番歳下だからと言つことで、早く先輩に追いつけるように練習をしているのだ。

僕と松本君は、昔、同じ野球チームでバッテリーを組む程仲がよかったんだ。そして、高校でも、バッテリーを組もうと言つ約束をしてた矢先、僕は倒れたんだ。入学式の時だった。高校に入つてそうそう、僕は末期ガンと宣告されて、余命一ヶ月となつたんだ。

「そうだね、元々黒いところもあったけど、夏の黒さじゃないかな？それって」

「まあな！先輩なんかさつさと追い抜かして、甲子園に出てやるっ

て言っのが俺の夢なのさ！」

「そうずっと言ってたよね、球盟高校に入学したのも、甲子園出場最多を誇る高校だからとか。それで、僕も無理矢理巻き込まれて・・・」

「そう言っなよ！お前だって、甲子園に行くのが夢だったんだろ？」
「・・・・僕は、もう無理だからさ」

僕がそうつぶやいた途端、空気が沈んだのがわかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0577u/>

生きとし生ける者に告ぐ

2011年10月8日17時44分発行